

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十三主日礼拝のしおり

2021年8月22日

前奏：

聖名による挨拶

牧師：父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

会衆：アーメン。

牧師：主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

会衆：そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

一同：父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

招きのことば：詩編 34 編:16-23 節

主は、従う人に目を注ぎ 助けを求める叫びに耳を傾けてくださる。

主は悪を行う者に御顔を向け その名の記念を地上から絶たれる。

主は助けを求める人の叫びを聞き 苦難から常に彼らを助け出される。

主は打ち砕かれた心に近くいまし 悔いる霊を救ってくださる。

主に従う人には災いが重なるが 主はそのすべてから救い出し

骨の一本も損なわれることのないように 彼を守ってくださる。

主に逆らう者は災いに遭えば命を失い 主に従う人を憎む者は罪に定められる。

主はその僕の魂を贖ってくださる。主を避けどころとする人は 罪に定められることがない。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。

アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も礼拝に導いてくださりありがとうございます。私たちは共にあなたの御言葉をいただいて新しい一週間を始めます。あなたは私たちのもとにイエス様をつかわしてくださいました。イエス様を信じる信仰をお与え下さり、私たちをいつもイエス様のうちに、またイエス様が私たちのうちおらせてくださいます。すべての罪を赦していただき、新しいいのちに生かしてくださいます。今週も毎日の生活の現場にて、あなたの導きと支えを経験し、隣人の力になっていけるように、私たちを鍛え用いてください。

今週から再びビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

新型コロナ・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：エペソの信徒への手紙 6章 10-20節

最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。だから、邪悪な日によく抵抗し、すべてを成し遂げて、しっかりと立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履物としなさい。なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができます。また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。ま

た、わたしが適切な言葉を用いて話し、福音の神秘を大胆に示すことができるように、わたしのためにも祈ってください。わたしはこの福音の使者として鎖につながれていますが、それでも、語るべきことは大胆に話せるように、祈ってください。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 6章 56-69節

わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降(くだ)って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」これらは、イエスがカファルナウムの会堂で教えていたときに話されたことである。ところで、弟子たちの多くの者はこれを聞いて言った。「実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか。」イエスは、弟子たちがこのことについてつぶやいているのに気づいて言われた。「あなたがたはこのことにつまずくのか。それでは、人の子がもといた所に上るのを見るならば……。命を与えるのは“霊”である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。しかし、あなたがたのうちには信じない者たちもいる。」イエスは最初から、信じない者たちがだれであるか、また、御自分を裏切る者がだれであるかを知っておられたのである。そして、言われた。「こういうわけで、わたしはあなたがたに、『父からお許しかなければ、だれもわたしのもとに来ることはできない』と言ったのだ。」このために、弟子たちの多くが離れ去り、もはやイエスと共に歩まなくなった。そこで、イエスは十二人に、「あなたがたも離れて行きたいか」と言われた。シモン・ペトロが答えた。「主よ、わたしたちはだれのところへ行きますようか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています。」

説教：「永遠の命の言葉を持っている」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

1) 真理を語るイエス様

真理を語ると、人が離れていく、ということがあります。

最初は、イエス様が人里離れたところまでついてきた大勢の群衆の空腹を、五つのパンと二匹の魚をもって好きなだけ食べることができるようにして下さったことから始まりました。旧約聖書に書かれていますが、モーセがエジプトに捕らえられ奴隷となっていた同胞イスラエルの人々を、解放し脱出させることに成功しました。その後、民は荒野をさまよひ、食べるものがなくて困っているときに、モーセは神さまにお祈りをして、神様からのプレゼントとしてパンのようなマンナという食べ物を天から降らせていただき、それによって人々のいのちがつながりました。五千人の人々を奇跡によって満腹になさったイエス様は、マンナのことを引用して、食べてしばらくしたらまたおなかがすいてしまう食べ物ではなく、朽ちない食べ物、永遠

のいのちに至るいのちのパンがある、それを私は与えます、と言われました。人々はそれをいつも私たちにください、と言いました。そこからイエス様のお話がはじまりました。

ヨハネによる福音書はイエス様が神様から遣わされた独り子であると教えます。すべてをおつくりになった神さまが私たちのために、人間の肉をとって人となってくださったというのです。そして、人として神様のみ前にまっとうなご生涯を送られ、さらに人々の罪を背負って身代わりの犠牲として十字架にかかって死んでくださり、私たちの罪をすべて赦し、罪と悪魔と死の力からわたしたちを解き放ってくださったことを示す復活をしてくださいました。

イエス様はここでも、わたしはいのちのパンです、わたしの肉をたべ、わたしの血を飲むものはわたしによって生きる、と言われています。聖書のメッセージは、あなたの罪を赦すために歴史の中に来てくださったイエス・キリストに信頼し、神様の子どもとされて、今もとこしえまでも生き生きと生きる命をいただくというメッセージです。

当時のイスラエルの人々は神様に選ばれた民として、いただいた生活の律法や礼拝の作法をしっかりもって、神様に喜ばれる民として歩んでいこう、と考えていました。そこに、イエス様が、わたしは神様がイスラエルの人々を含む全世界の人々の罪を赦すために遣わされた救い主である、と言われたのですから、驚きだったのでしょうか。イエス様の教えや勧めを聞いて、それを参考にして生きていくことをまじめに考え、自分で何とかよい人間になっていこう、と心がける生活を励まされたのではないのですから、たいへん躓いたことでしょう。

わたしは天からくだったいのちのパンである、と言っても、人々はイエス様の育ったご家庭も知っていましたので、あのナザレの村のヨセフとマリヤの家で育ったイエス様が天からくだったいのちのパンだとは矛盾しないか、と質問しました。また、わたしはいのちのパンでわたしを食べる者は永遠のいのちを得ると言っても、どうやってイエス様を食べたり飲んだりできるのか、と尋ねました。そして今日の箇所では、大勢のイエス様についてきていたお弟子たちがつまづいて、イエス様から離れていきました。

一般的なよい教えだ、ということならまだしも、特定の方が神の御子だと信じる信仰には敷居が高かったのでしょうか。それも目の前でわたしがいのちのパンです、と言われているイエス様をどうしても受け入れることができなかったのでしょうか。私たちもその気持ちがわからないわけではないですね。

イエス様に対して多くの方が「実にひどい話だ。誰がこんな話を聞いていられようか」と言って躓き、去っていきました。また聖書のおきてやきまりを参考にして、できるだけよい人間になろうとする生活に戻っていったのだと思います。道であり、いのちであり、真理であるイエス様が、ご自分のことをお話になると、多くの人々は受け入れることができないで離れていったのです。

2) 十二弟子はとどまった

イエス様は67節で十二人のお弟子たちに「あなたがたも離れていきたいのですか」と尋ねられました。シモン・ペテロが十二弟子を代表して「主よ、わたしたちは誰のところへ行きますようか。あなたは永遠の命を持っておられます。あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています」と言ってイエス様への信仰を告白しました。

ペテロは、イエス様が神さまから遣わされた聖なる方であることを信じます、と告白しました。その告白の土台は何でしょうか。それはペテロがイエス様に向いていたということです。

他の人々はイエス様のことをあの人とかこの人と言って、あなたと呼んでいません。ペテロはイエス様にあなたは永遠のいのちを持っておられます、あなた以外の誰のところへ行きますようか、あなたこそ神の聖者だと信じ、知っています、と告白しています。

神さまはすべての人をおつくりになり、すべての人のためにイエス・キリストを救い主としてお遣わしてくださいました。しかしそれは一括しておしなべて皆さんのため、一般的に言うすべての人のため、というよりも、そのすべての人に一人一人に深くかかわってくださる罪からの救い主としてあなたのためにイエス・キリストを遣わしてくださいました。弟子たちは、信じられないような理解や思いを超えたイエス様のお言葉にも、自分の罪の赦しのために神様がそこまでしてお与え下さった救い主であられるということに感謝をして受け止めているのです。

私たちは自分の罪を乗り越えて、よい人になることを生涯の目標にします。しかし、それはかなう可能性のないことです。自分でよい人になることを目指して歩む自分の姿に自己陶醉することもあります。しかし一般的に与えられている基準を満たすために自分としてがんばっていく生き方は公のことではなくひとりよがりの生き方です。

むしろ、自分の目、人の目ではなく、神様の目で私自身が事実罪びとであることを知られているのですから、それを認めて受け入れて、そのうえで神さまがその私のため、そのような全人類のために、公の救い主であるイエス・キリストを救い主としてお送りくださったと聖書が語ってくださっていることを信用して、罪の赦しを受けていくことがイエス様の肉を食べ、イエス様の血を飲むことです。

そのときまで多くの人がイエス様に従っていました。広い意味で弟子、と呼ばれていました。けれどもその多くはイエス様が真理をお語りになると去っていきました。しかし、十二人の弟子はイエス様こそ神様からの聖者と信じてとどまりました。罪の赦しを受け、新しい命を受けていきました。

3) あなたがたも離れていきたいか

イエス様は十二人のお弟子たちに「あなたがたも離れていきたいか」とお聞きになっています。今朝私たちはいかがでしょうか。大勢の弟子たちのように、聖書の教えを参考にし、自分

でよい人間になっていくプロセスを楽しみたいと思いますか。それとも、真理の光に照らされて、自分が神様に背く性質をもっていること、自分の得にならないなら神さまと共に歩むことは避けていきたいと思うこと、イエス様を信じてすべて心の隅々まで一新して歩むことには抵抗を感じどこか少しは自分の世界を残しておきたいと感じていることなどを自覚しますか。

イエス様は私たちの罪を赦すため、十字架にかかってくださいました。信じて洗礼にあずかるものは、神様の前で私が見られるときに、イエス様の衣を見て下さるのです。生まれつきの欲と自己中心にまみれた肉の心にかえて、新しいイエス様の命が内に生まれます。世にあって神様の子どもとして、神様のみこころを喜び、自発的に神様のみむねを行う新しい霊をいただくのです。もちろん世にある限り、内に残る肉の思いとの戦いがあります。肉の思いが強いのでとても手ごわくときには死闘をくりひろげざるを得ないことがあります。それでも私たちは洗礼の事実には立ち帰り、わたしの古い人である肉はイエス様と共に既に死に、今や新しいイエス様にある命が宿っているのだ、という厳然とした真理の事実には立脚して、ときどきは打ち勝って歩むことができます。イエス様にあって新しいいのちを歩むことは、律法を参考にして自分で少しずつよくなっていくという歩みとは違い、もうすでに神の子とされている私たちが神さまと人々とのあたたかい交流のなかで励まし合って成長していく豊かな歩みです。

今朝もイエス様が私たちに真理をお語りくださっていることに感謝をし、ペテロさんのように「主よ、あなたをはなれて誰のところに行くのでしょうか、あなたこそ永遠のいのちの言葉を持っておられ、あなたこそ神様から遣わされた聖なる方です」と告白して歩みましょう。あなたの罪をよくご存じで、そのうえでその罪を赦し新しいいのちを与えるためにイエス様はご自分のいのちを与えてくださいました。イエス様に信頼し、イエス様を救い主と告白して歩みましょう。十二弟子たちがそのような信仰を励まし合って歩んだように、同じ信仰にたつお互いを祈りをもって支え合いつつ歩みましょう。自分がよい人になることを目指して歩み人々にとつては、人々との出会いは自分がよい人になるために使う人となります。イエス様にあって歩むとき、自分のことよりも出会うその方の祝福が主眼となります。私たちはいやいや人を愛するのではなく、愛を注ぐ対象を作り出して歩んでいきます。この一週間の歩みが、人々の祝福となり、幸せをつくるものとなりますように、お互いに祈り合い、支え合って歩んでまいりましょう。

シモン・ペトロが答えた。「主よ、わたしたちはだれのところへ行きますでしょうか。あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。」ヨハネ 6:68

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌：502番

1. いともかしこし イエスの恵み 罪に死にたる 身をも活かす

主よりたまわる天(あめ)の糧に飢えし心も飽き足らいぬ

※ 世にある限り きみの栄えと いつくしみとを語り伝えん

2. 救いの恵み告ぐるわれは 楽しみ溢(あふ)れ歌とぞなる

滅びを出でしこの喜び あまねく人に得させまほし ※

3. くすしき恵み あまねく満ち あるに甲斐なきわれをも召し

天(あま)つ世継ぎとなしたまえば 誰(たれ)か洩(も)るべき主の救いに ※ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えされ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏